

白鳥館遺跡第 21 次調査現地説明会資料

令和 4 年 10 月 20 日 (木)

調査地点 奥州市前沢字白鳥館地内
調査期間 令和 4 年 6 月 29 日～
令和 5 年 3 月 31 日 (予定)

調査面積 59 m²

調査担当 奥州市世界遺産登録推進室
及川真紀

調査目的 本調査は、白鳥館遺跡の整備の
事前調査として実施したもので
す。今年度は郭 II の虎口と郭 II
東郭群の平場の状況を確認する
ことを目的としました。

調査成果

①石積の半地下式倉庫跡

主郭の虎口(入り口)への通路を確認
するため、虎口の南側に T1 で石列が確
認されました。石列の西の黒色土を掘削
したところ、石積の半地下式の倉庫跡と

推定される遺構であることが判明しました。石積の半地下式倉庫跡は、東西 4 m 以上、南北 1.5 m 以上、深さ 1 m 程度の規模で、虎口への通路に面して建っていたと考えられます。石積は裏込めがあり、高さ 1 m ほど石を積んで建物の壁としています。石積の壁は建物の東側でのみ確認され、北側にはありません。北側には自然の巨石があるので、これを利用して壁にしているとみられます。底面も自然の巨石を平らに削って作られているようです。建物を廃絶するときに片付けて埋め戻されたようで、遺物はほとんど出土しませんでした。虎口と堀との関係から、遺構の年代は 15 世紀半ばごろと考えられます。

②堀跡 1、土塁跡

堀跡 1 は、主郭の虎口と石積の半地下式倉庫跡との間で確認されました。過去の調査でも確認されていた堀跡でしたが、今回の調査で、新旧 2 時期の堀跡があることが確定しました。また、堀跡と石積みの半地下式倉庫との間には、土塁が設けられていたと考えられます。新しい時期の堀跡からは、北宋銭が 1 枚出土しました。堀跡の年代は 15 世紀半ばごろと考えられます。

③堀跡 2

郭 II の東斜面の狭小な平場では、堀跡 2 と、10 世紀頃の竪穴住居跡が確認されました。堀跡は、幅 2 m 以上、深さ 1.5 m で、切岸に沿って延びています。現状の城館の縄張りに沿っていることから、15 世紀の遺構と推定されます。

まとめ 今回の調査により、城館の主郭への入り口の状況について、具体的な様相が把握でき、史跡整備に資する情報が得られました。また、北上川に面した東斜面に大きな倉や堀跡が設けられていたことから、白鳥館遺跡の城館は北上川方面からの景観を重視していたことが読み取れます。





図2 白鳥館遺跡第21次調査区位置図

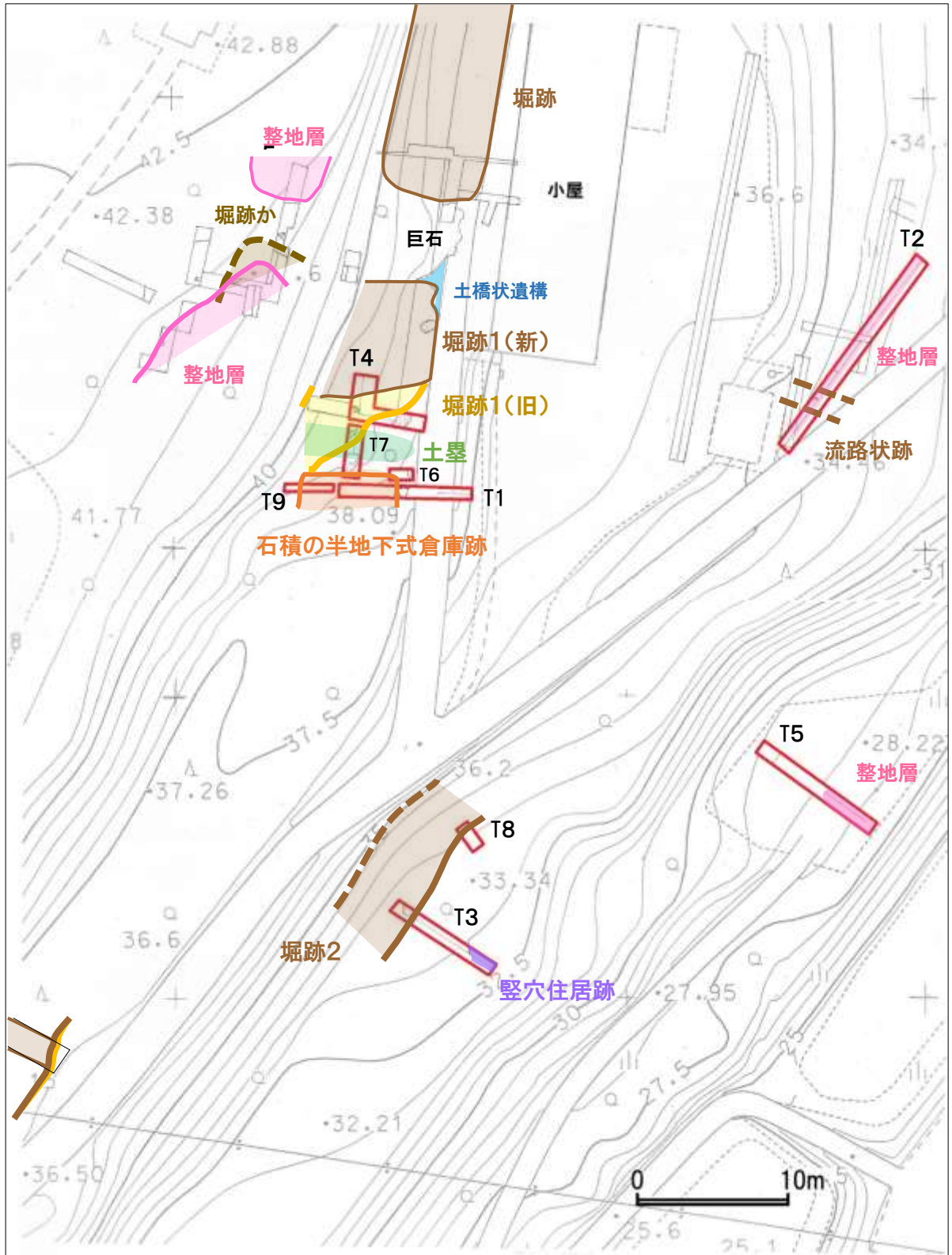


図3 白鳥館遺跡第21次調査遺構配置図



写真1 郭Ⅱ虎口の南 石積の半地下式倉庫跡と堀跡（東南から）



写真2 郭Ⅱ虎口の南 堀跡1（東から）



写真3 郭Ⅱ虎口の南 石積の半地下式倉庫跡（西南から）



写真4 郭Ⅱ東郭群 堀跡2（東から）